

## 「医食同源」心得帖

### 第二回「善と悪」

N P O 免疫療法懇談会理事長 酒生文弥

明けましてお芽出とうございます。十二支は子つまり種子に始まり、植物が芽を出し次第に成長・繁茂していく姿を、象形・連写した漢字ですが、今年の干支・酉は「完熟した実り」を表わします。去年はテロや凶悪犯罪が絶えず、内外ともに天災に震憾させられるなど、暗い一面もありました。悪しきをサルベキ年として深く内省を促す貴重な時でした。今年は、共に生かされてある「いのちの連帯」にめざめて、人災（戦争・紛争・テロ等）の根絶と天災への備えにグローバルに協働し、このミレニアムを至福千年とするために、地球的な共存共栄のビジョンと実践をトリにいきましょう。

寺に生まれ、幼少より仏事に従事させられましたので、「宗教」は否応なく大きな関心事でした。縁あって一期生として（財）松下政経塾で研鑽しましたが、実弟と政治上の師・中川一郎代議士の相次ぐ自死急逝という「無常」に際会。仏教・比較宗教を修めながら、個人として社会として人間が「救われる」ということの意味を、煩惱のまま俗間に暮らしつつ、考えてまいりました。理論としては、全ての「宗教」を見ざる視座を完成しましたが、実践・応用はまだ試行中です。

万教が異口同音に説いてきたことはただひとつ、“Be good!（善なれかし）”です。善悪論は哲学すれば難解でしょうが、宗教上は単純明解、“Good is for Life; Bad is against Life.（善はいのちに叶うこと、悪はいのちに背くこと）”に尽きます。自他一切のいのちを曇らせたり傷つけたり殺めたりすることは罪悪であり、いのちを産み育み伸ばし活かすことが善なのです。God は good の強調でその本質は Love（アガペートですが、仏陀も智慧（Wisdom）に基づく慈悲（Compassion）の実践者を意味し、キリストも釈迦も、ともに最高に for Life な人の道を力説されました。

「正義」は歴史的に「戦争」の常套的口実に使われてきましたが、人間は「罪深く煩惱に満ちた正義など語る資格のない存在」であることは「宗教」の大前提です。暴力は「いのちに背く」点で明白な悪です。武士道がまた評価されつつありますが、「武」は「矛をもって矛を止める」つまり、Self Defense（自衛ないし正当防衛）の道です。相手の暴力を防ぐ行為のみが、いのちを守るために唯一（必要悪として）許される暴力です。「善人なおもて往生を遂ぐ、いわんや悪人をや」。己の罪・煩惱を悔悛して初めて「真の正義」即ち「いのちの大義」に近づける、ことも万教の根本原理です。

人知は、文明という利器（鋭利な刃物）を大発展させました。刃物は、医師が使えばメスとして人命を救いますが、ヤクザが使うとドスとして人殺しの道具になります。ある意味で、医学と過剰な軍事開発は、人知の最善と最悪の発揮として好対照にあります。

「智」は、お日様の暖かく明るい光にライトアップされた知ですが、「とも」とも読む様に、友のために衆知を集めて初めて得られる叡智です。私達 N P O の英語名は W I S（World Immuno-Society）ですが、最善の “The Wisdom for Life!（いのちに叶う智慧）をめざして活動しています。